

大名みえ子です

秋田県東成瀬村教育委員会を視察

共に学びあう、社会総参加の教育で、当たり前前かが 当たり前前でできる子どもづくり



東成瀬小学校



鶴飼教育長のお話

湯沢市の地域包括支援
センター長と、主任ケ
アマネージャー↓



10月7・8日、議会文教厚生委員会で秋田県東成瀬村の教育と、湯沢市の地域包括ケアシステムについて学んできました。

7日訪れたのは、東成瀬小学校。対応してくださったのは、副議長、議会常任委員会委員長、教育長、小・中学各校長そして議会事務局の方々でした。東成瀬村は、人口3000人弱の小さな山村です。小学校は、東成瀬小1校（児童数114人、教職員数15人）、東成瀬中学校1校（生徒数67人、教職員数15人）です。目指す子ども像は、○知・徳・体のバランスの取れた子ども ○チャレンジ精神旺盛な子ども ○ふるさとを愛する子ども となっており、小さな村の少数の子どもたちが、(人間的に)大きくたくましく育っている状況がよく分かりました。知で大切にしているのは「授業」。“分かるまで教える”が基本です。また教職員の共同の責任の持ちかたがすばらしかったです。私はこれまで「教育現場ではある程度人数がいなければ子ども集団に活力がでない」など、聞かされることが多かったのですが、真に教育で子どもの何を育てるのか、そのために関係者は何を準備するのか、このことを問い直してみるのも重要なのではないかと感じました。

8日に訪れたのは、湯沢市役所。人口49,459人、高齢化率33.61%、一人暮らし世帯数2,429、高齢者のみ世帯数1,932で、雪深いまちならではの手立てもいくつかありました。

驚いたのは、高齢者の自殺予防のための傾聴ボランティアがあったこと。家族関係で悩み、自殺に至るケースが多い地域があるとのことでした。また雪が多い冬場、自宅にすることが困難な高齢者には越冬生活支援ハウスがあるそうです。

市内4つの地域ケア会議をもとに、必要な社会基盤作りを進め、公的サービスに加え、地域の力を結集し、安心の再分配という社会貢献につなげるとりくみを進めているとのことでした。

台風18号 の影響

10月6日川根地区

台風18号は、風雨共に強いため、警戒を強めるよう言われ、ひたちなか市では、お昼前に自主避難者のための避難所開設のお知らせが流れました。本村も、11時45分に開かれた災害対策連絡会議に

より、東新川の波返し越流や、南新川住居の庭まで水位約50センチとの状況から、照沼小学校を自主避難の避難所として開設されました。これまでも経験してきたことですが、川と水田が雨水で一面化したり、激流で道路が寸断された状況は、自然の力の恐ろしさを知らされます。これ以上の大災害を防ぐ手立てが急がれます。

